

景気景況調査報告

(第26回)

令和4年 4～ 6月期 実績

令和4年 7～ 9月期 見通し

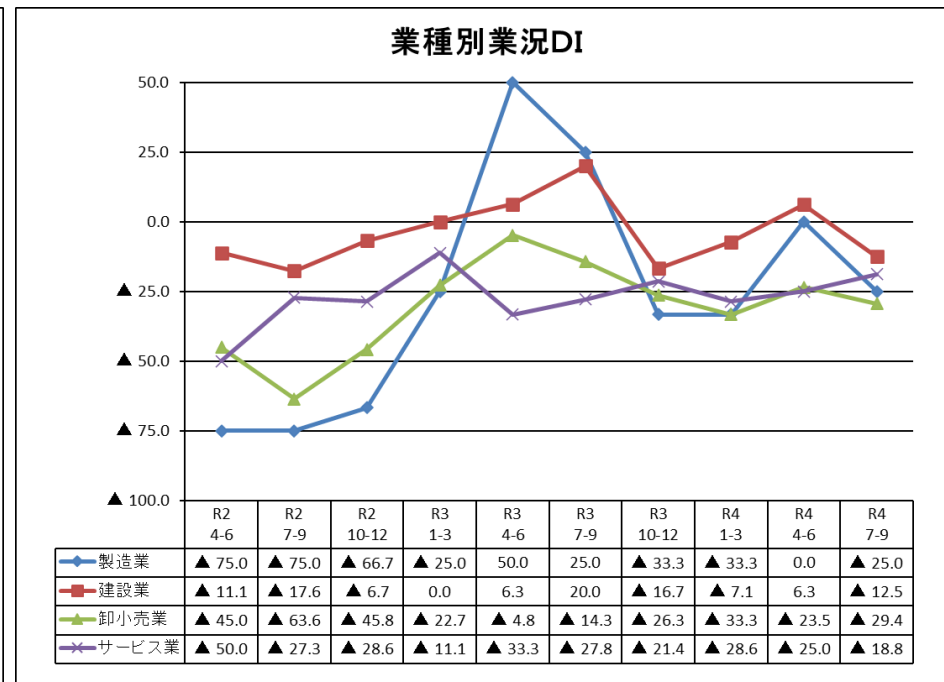
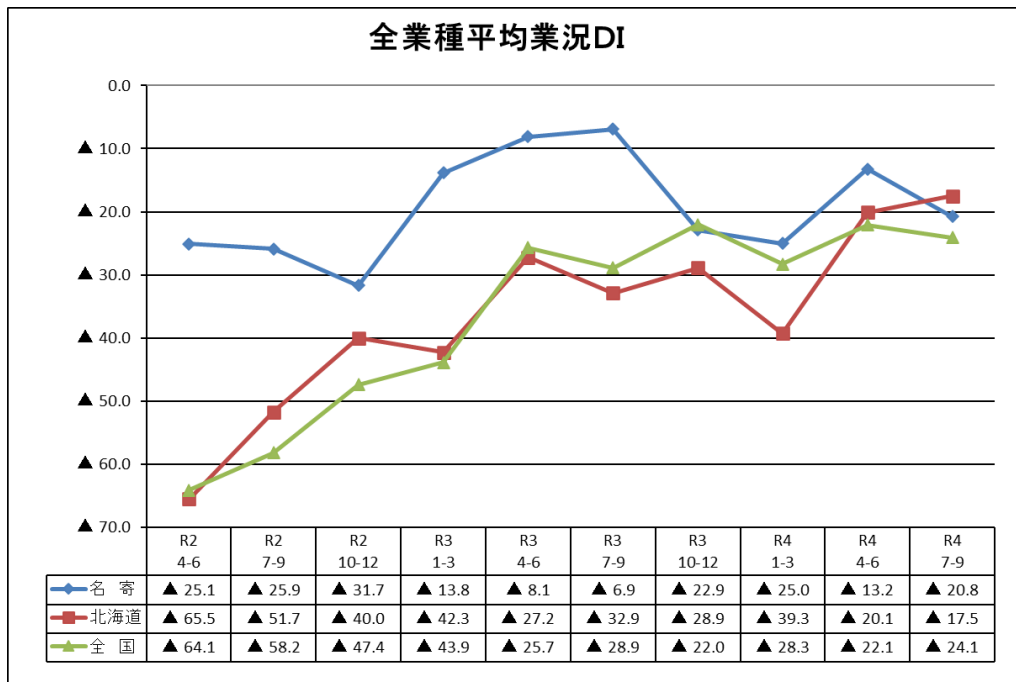
令和4年8月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和4年4～6月期の実績及び令和4年7～9月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 121社

II 調査結果

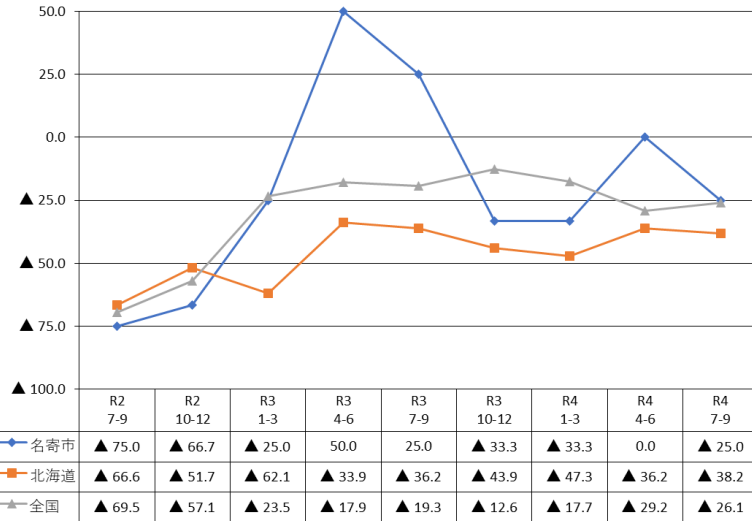


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

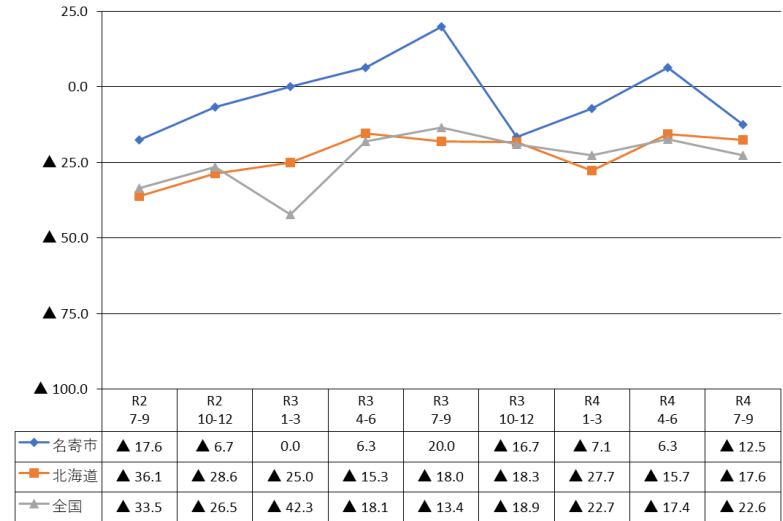
- ・今期、全業種平均で▲13.2ポイントと前回調査と比べ11.8ポイント好転となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気を比較すると、今期19.2ポイント好転となり、見通しではマイナス幅が更に縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気を比較すると、今期6.2ポイント好転となり、見通しではマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全体的に1月～3月の緊急事態宣言を抜けて好転傾向にある。
- ・見通しでは今期と比べ7.6ポイント悪化となっており、ウクライナ情勢による物価高騰や、新型コロナウイルス第7波の影響等が見られる。
- ・業種別では、前期に比べ全業種好転傾向となっている。だが見通しではサービス業以外悪化となっている。

業種別業況DI

製造業 業況DI



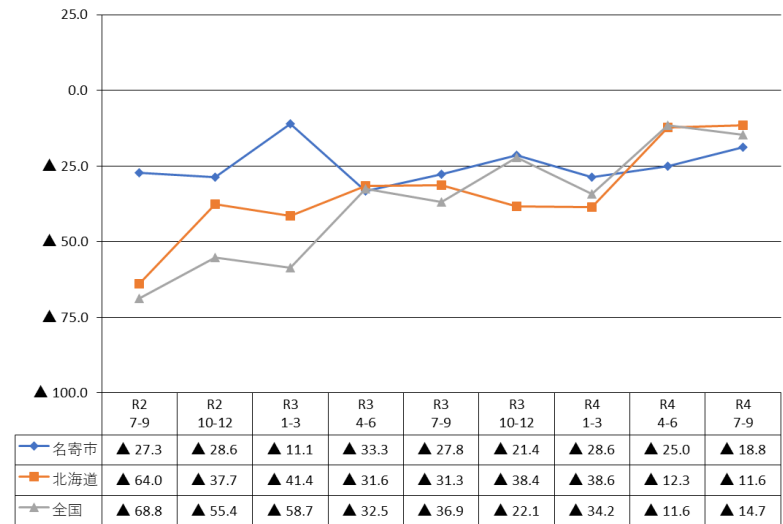
建設業 業況DI



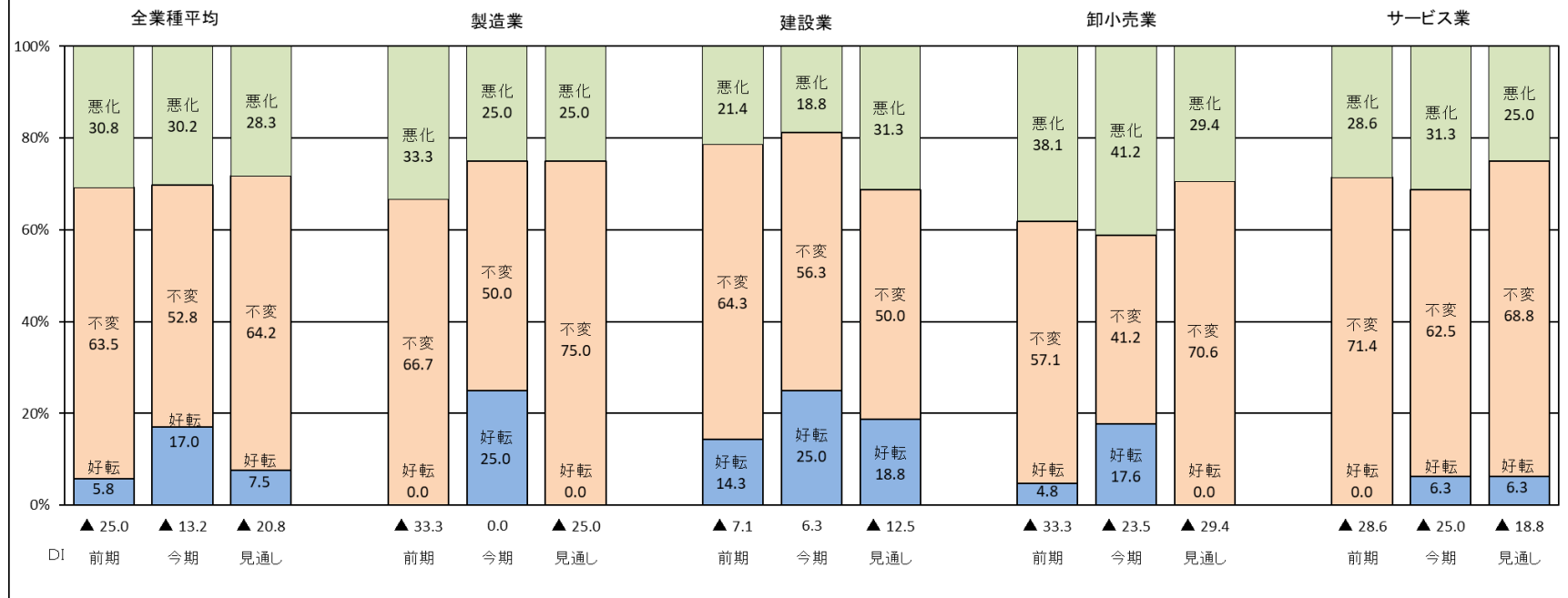
卸小売業 業況DI



サービス業 業況DI



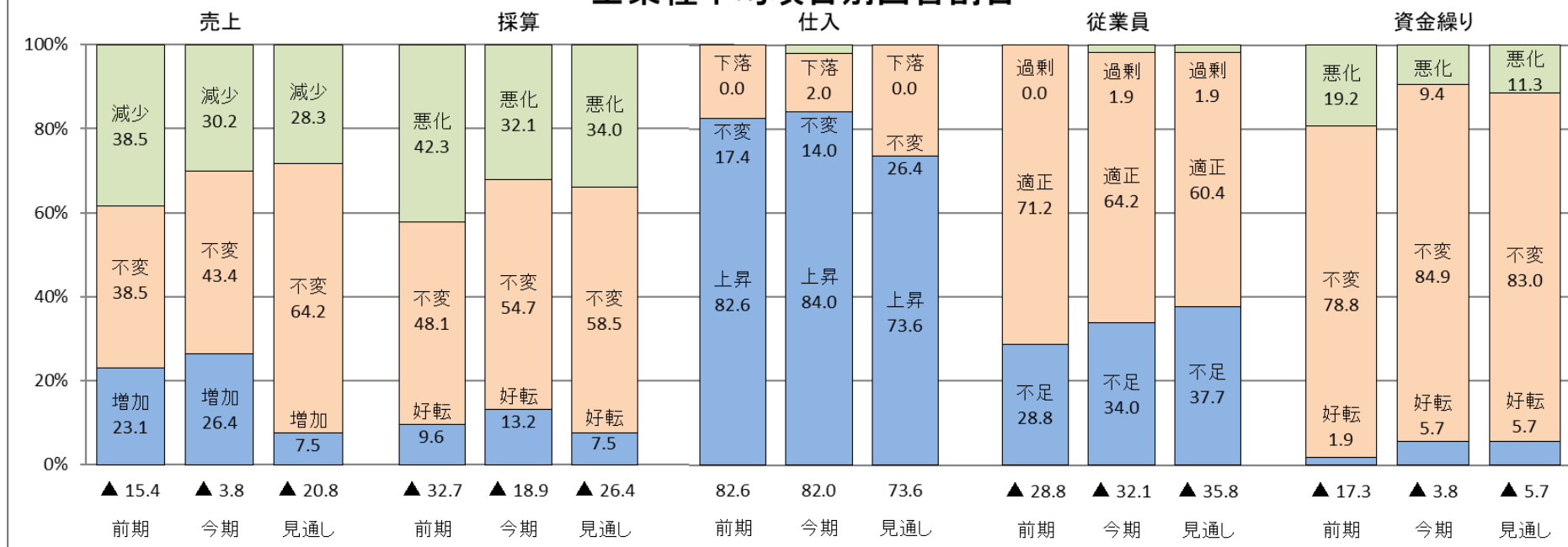
業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期、好転の回答はあったが、見通しでは前期と同様好転の回答はない。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が2.6%減少しており、「好転」が10.7%増加している。
見通しでは「悪化」が12.5%増加し、「好転」は6.2%減少となっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が3.1%増加しており、「好転」は12.8%増加している。
見通しでは「悪化」が11.8%減少し、「好転」の回答はない。
悪化の要因として、原油価格高騰・ウクライナ情勢による物価等の高騰・人口減少等がみられる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が2.7%増加しており、「好転」は6.3%となっている。
見通しでは「悪化」が6.3%減少し、「好転」の変動はない。
全体的に人口減少・仕入運賃増加・ウクライナ情勢による影響・円安・お客様の減少・若年層不足・求人難
仕入単価増加・新型コロナ株に伴う外出抑制・コロナによる人流制限・コロナ対策予算の増加
コロナの見通し不透明等々の要因が挙げられている。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI 今期▲3.8ポイントと前期より11.6ポイント減少となっている。見通しでは17.0ポイント増加となっている。
 [減少の要因] ・物価高 ・物流の遅延 ・事業の減少 ・客単価減

採算 DI 今期▲18.9ポイントと前期より13.8ポイント減少となっている。見通しでは7.5ポイント増加となっている。
 [悪化の要因] ・資材高騰 ・利益率の悪化 ・固定費の増加 ・メーカーの大幅値上げ ・原油価格の増加

仕入 DI 今期82.0ポイントと前期より0.6ポイント減少。見通しでは8.4ポイント減少となっている。
 [上昇の要因] ・ウクライナ情勢の影響 ・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇

従業員 DI 今期▲32.1ポイントと前期より3.3ポイント増加となっている。見通しでは3.7ポイント増加となっている。
 [不足の要因] ・高齢化 ・人口減少 ・若年層の減少 ・求人難 ・退職者増 ・仕事量の減少 ・職人不足

資金繰り DI 今期▲3.8ポイントと前期より13.5ポイント減少となっている。見通しでは1.9ポイント増加となっている。
 [悪化の原因] ・売上減少に伴う減少 ・品不足 ・新型コロナウイルスの影響 ・先行不透明